

# 小中連携の英語教育の在り方に関する研究

— 中学校1年生の英語学習に対する意識調査を通して —

高知市立新堀小学校 教諭 佃 由紀子

## 1 はじめに

小学校教諭として、小学校英語<sup>1</sup>の実践を重ねるにつれ、中学校とのつながりを考えざるを得なくなってきた。特に、構造改革特別区域（以下、特区）における「英語科」の実践では、小学校で学んだことが中学校にどのようなつながっていくか、また小学校間の取組の違いが中学校にどのような影響を及ぼしているか懸念された。文部科学省（以下、文科省）は、小学校英語の現状について「英語活動の内容や授業時間数には相当のばらつきがあり、特に中学校教育との円滑な接続を図るという観点から中学校に入学した時に共通の基盤が求められている。」と指摘し「小学校と中学校が緊密に連携を図ることが重要である。」としている<sup>2</sup>。そして、新学習指導要領案では「中学校外国語科」において「小学校外国語活動」との関連が明記されるに至った。小中学校ともに原則として英語を取り扱うことが示されていることから、今後英語教育<sup>3</sup>における小中連携の在り方がますます問われることになる。

しかし、これまでの小学校英語が中学校教育に与えてきた影響を検証することなく、連携の在り方を論じることはできない。とりわけ、小学校英語が重視してきた情意的側面の育成に対する検証が求められる。その先行的な検証として「小中教員に対する意識調査」や小学校との接続時期を過ぎた「中学生に対する意識調査」が見られるが、接続時期の「中学生に対する意識調査」にこそ、その実態が表れると考えた。

そこで、本研究では意識調査を通して、小学校英語が児童生徒の情意的側面に与えてきた影響を明らかにする。そして、そこからあぶり出された小学校英語の効果と課題や中学校との接続の課題を糸口にして、今後の小中連携の英語教育の在り方を探っていく。

## 2 研究目的

中学校1年生の英語学習に対する意識調査を通して、小学校英語が児童生徒の情意的側面に与える影響を明らかにすることにより、小中連携の英語教育の在り方を考察する。

## 3 研究内容

研究内容は、(1)英語教育における小中連携に関する現状調査 (2)公立中学校1年生の英語学習に対する意識調査 (3)小中連携の英語教育の在り方に関する考察 の3項である。

### (1) 英語教育における小中連携に関する現状調査

#### ① 高知県の小学校英語の現状

高知県では、平成8年に田野小学校が、研究開発校となって以来、指定校を中心に小学校英語に関する研究が進められている。本県における平成18年度の英語活動実施率は96.5%(実施校246校 調査対象校255校)であり、全国の95.8%より高い<sup>4</sup>。しかし、小学校間の取組にばらつきが見られる現状は同じである。中でも、特区では、位置付け・時間数などが他の公立小学校と異なっている。そこでは、3学年以上で「英語科」が特設され、平成16年度から市単独雇用の外国語

<sup>1</sup> 本稿では、「小学校英語」を小学校における「外国語（英語）活動」「英語科」を総称する用語として使用する。

<sup>2</sup> 文科省「幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」

<sup>3</sup> 本稿では、「小学校英語」「中学校英語科教育」を含めて「英語教育」とした。

<sup>4</sup> 文科省「小学校英語活動実施状況調査結果概要（平成18年度）」

指導員と学級担任による授業が週2時間（年間70時間）実施されている<sup>5</sup>。また特区以外（以下、非特区）における学校間の取組の違いは、特に「実施時間数」（年間1時間～35時間程度）に見られる。このように本県においても、同中学校に入学する生徒が受けてきた小学校英語は異なっている現状がある。

② 英語教育における小中連携の現状

文科省「英語教育改善実施状況調査結果（中学校）」によると、小学校との連携状況は、平成17年度28.4%、平成18年度35.1%と増加している。また、平成18年度の連携内容をみると「授業参観」が一番多く（23.8%）、次いで「指導方法等についての検討会」「学校教員とのTT」「英語キャンプなどの合同活動」である。本県においても、小中連携の取組の一つとして教員による「授業参観」交流は行われているが、「指導方法等についての検討会」は指定校が中心である。先進的な取組としては、田野町において幼稚園から中学校までの10年間を見通したカリキュラムを作成・実施・検証し、町全体が連携して幼児・児童・生徒を育成していることがあげられる<sup>6</sup>。

(2) 公立中学校1年生の英語学習に対する意識調査

① 調査目的

本調査は、小学校英語が児童生徒の情意的側面に与える影響を把握し、中学校との接続の実態を明らかにすることを目的とする。

② 調査内容

- ・小学校と中学校の接続時期における児童生徒の情意面の変容を調査する。
- ・小学校における取組の違いが児童生徒の情意面に与える影響を調査する。

③ 調査仮説

- 仮説1：小学校における情意面の育成の効果は、中学校における情意面の育成を促している。
- 仮説2：特区・非特区による取組の違いは中学校での英語学習に対する自己有能感に表れ、実施時間数による取組の違いは外国の言葉や文化に対する関心に表れる。

④ 調査方法

- ・調査対象 中学校区に特区の小学校がある公立中学校1年生（3校 336人）
- ・調査時期 平成19年5月～6月
- ・調査方法 意識調査用紙（参考資料1）への記入

⑤ 調査結果と考察

ア 中学校入学前の英語学習経験

調査対象者（336人）の46.1%（155人）が中学校入学までに小学校以外で英語を学んだ経験があった。

また、出身小学校16校全てにおいて英語活動等を実施していた。図1は高学年における実施時間数と人数を表している。6学年で週1時間以上学習してきた生徒は全体の69.3%（233人）に及んでいることがわかる。

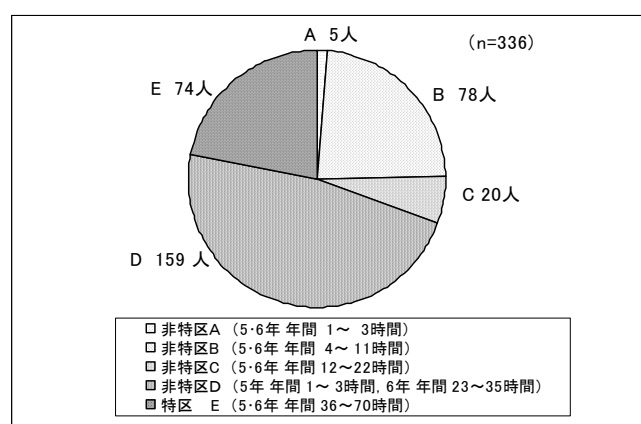


図1 小学校における英語活動等経験

<sup>5</sup> 高知県企画調整課「特区・地域再生高知県の認定状況」 <http://www.pref.kochi.jp/~kikaku/tokku/kennnaikeikaku.html>

<sup>6</sup> 村端五郎・高知県田野町幼小中連携英語教育研究会（2005）

## イ 接続時期における「楽しさ感」の変容

図2は、小学校・入学前・中学校における「楽しさ（楽しみ）感」に対する回答（A「とても楽しい」B「楽しい」C「あまり楽しくない」D「楽しくない」）に、4点・3点・2点・1点を与えた場合の平均値を、特区（Ex）・特区（Non-Ex）・非特区（Ex）・非特区（Non-Ex）の4群別に示したものである<sup>7</sup>。仮説1では、小学校での楽しさ感が中学校への期待感を促すと考えていたが、入学前にはその平均値は低くなり、入学後小学校時期と同程度までに回復していることがわかった。

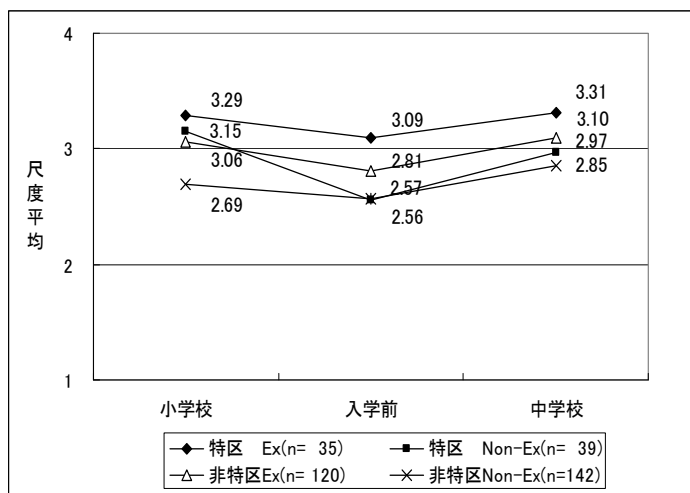


図2 接続時期の「楽しさ感」の変容

以下、「小学校時期」「入学前」「中学校時期」という時列にそって、児童生徒の情意的側面の変容を探っていく。

### (ア) 小学校時期の「楽しさ感」

肯定的な回答（A・B）の割合は75.6%（254人）であり、その一番の理由は「英語を使った歌やゲーム（以下、「歌・ゲーム」）」であった。また、否定的な回答（C・D）の割合は23.8%（80人）であり、小学校において改善されなければならない課題である。そして、その理由もまた「歌・ゲーム」であった。授業において「歌・ゲーム」を活用する場合には、その目的や方法に留意して指導する必要があるといえる。さらに分析を進めると、楽しさを感じさせる要因として「学習の雰囲気」、楽しさを感じさせない要因として「英語で会話をする」ことが浮かび上がってきた。「英語で会話をする」については、児童の実態にその内容や方法が合っていなかった可能性がある。また、特区・非特区の取組の違いによる影響については、Non-Ex群だけを分析対象とした。その結果、特区 Non-Ex（平均3.15 標準偏差0.84）と非特区 Non-Ex（平均2.69 標準偏差0.90）に有意な差（両側検定： $t(177)=2.87$ ,  $p < .01$ ）が認められたことから、小学校時期の「楽しさ感」にその影響が表れていることがわかった。

### (イ) 中学校入学前の「期待感」

入学前の「期待感」に対する肯定的な回答の割合は66.7%（224人）、否定的な回答の割合は33.3%（112人）であり、肯定的な回答の割合が小学校時期よりも少なくなっている。小学校時期の「楽しさ感」が入学前の「期待感」に結び付いているわけではなかった。この要因を自由記述に探ると、「（入学前）中学校の勉強は難しいと感じていた。」「小学校は遊び（ゲーム）という感じで、中学校と授業が違う。」など、生徒は教員が思っている以上に、小学校と中学校の間に不安な気持ちを感じていたことがわかった。また、特区 Non-Ex（平均2.56 標準偏差0.88）と非特区 Non-Ex（平均2.57 標準偏差0.89）に有意な差は認められなかったことから、入学前の「期待感」への特区・非特区の影響はないといえる。

### (ウ) 中学校時期の「楽しさ感」

このような状況で入学してきた生徒は、中学校における英語学習をどのように感じているのだろうか。肯定的な回答の割合は79.5%（267人）、否定的な回答の割合は20.0%（67人）であり、小学校時期や入学前に比べると肯定的に回答した割合が増えている。その理由を「小学校時期の楽しさ感」と「中学校時期の楽しさ感とその理由」とのクロス分析から探ると、

<sup>7</sup> 中学校に入学するまでに学校以外で英語を学んだ経験がある参加者を Experienced（以下 Ex）と表記し、経験がない参加者を Non-experienced（以下 Non-Ex）と表記する。

2つのことが浮かび上がってきた。一つは、入学後中学校の授業で「わかるようになった」「できるようになった」と感じられたことであり、もう一つは、小学校時期の「楽しさ感」である。小学校での英語学習に肯定的な回答をした約9割の生徒が中学校での英語学習に対しても肯定的な回答をしている。反対に小学校での英語学習に否定的な回答をした約5割の生徒が中学校での英語学習に対しても否定的な回答をしている。このことから、小学校時期の「楽しさ感」は、中学校時期の「楽しさ感」につながる可能性が大きいといえる。また、小学校で楽しさが感じられなかった80人のうち、39人(11.6%)は中学校入学後も楽しさを感じられないままであることも明らかになった。このことは、小中学校教育を通して改善されなければならない課題である。特区・非特区の取組の違いによる影響については、特区 Non-Ex (平均 2.97 標準偏差 0.84) と非特区 Non-Ex (平均 2.86 標準偏差 0.88) に有意な差は認められなかった。このことから中学校時期の「楽しさ感」において、その影響はないといえる。しかし、楽しさを感じる理由(上位項目)に違いが見られた。特区では「英語そのものが楽しい」「書くことが楽しい」、非特区では「先生(とのかかわり)が楽しい」「ゲームが楽しい」であった。逆に楽しさを感じられない理由(上位項目)として、特区・非特区とも「英語そのものが楽しくない」「英語がわからない」があげられた。

#### ウ 小学校英語の「役立ち感」

次に、中学校における小学校英語の「役立ち感」について分析した。肯定的な回答の「とても役に立っている」「役に立っている」とする割合は70.0%(235人)、否定的な割合は28.3%(95人)であった。図3は、肯定的な回答の理由項目の割合を示したものである。態度面(①②③)より能力面(④⑤⑥⑦)で役立ちを感じている。小学校英語では態度面を重視してきたが、その有用性をあまり感じていないことがわかる。小学校の取組の違いによる影響については、特区 Non-Ex (平均 3.05 標準偏差 0.80) と非特区 Non-Ex (平均 2.55 標準偏差 0.85) に有意な差(両側検定:  $t(173)=3.20, p < .01$ )が認められたことから「役立ち感」にそれが表れているといえる。

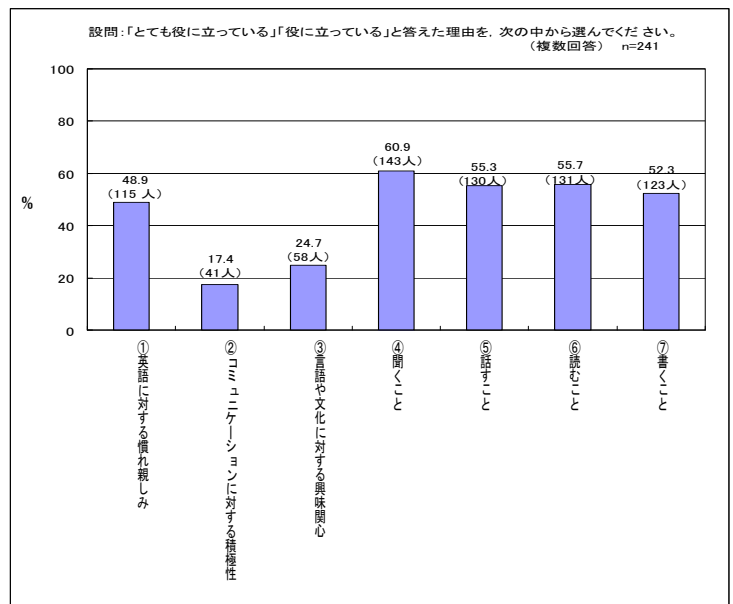


図3 小学校英語の「役立ち感」

#### エ 中学校での英語学習に対する「自己有能感」

仮説2では、特区・非特区の違いは「自己有能感」に表れるとしたが、図4にある各平均値に有意な差は認められなかった。このことから中学校での英語学習に対する自己有能感(態度面・能力面)において、特区・非特区の影響はないといえる。しかし、全ての項目において、Ex群とNon-Ex群の

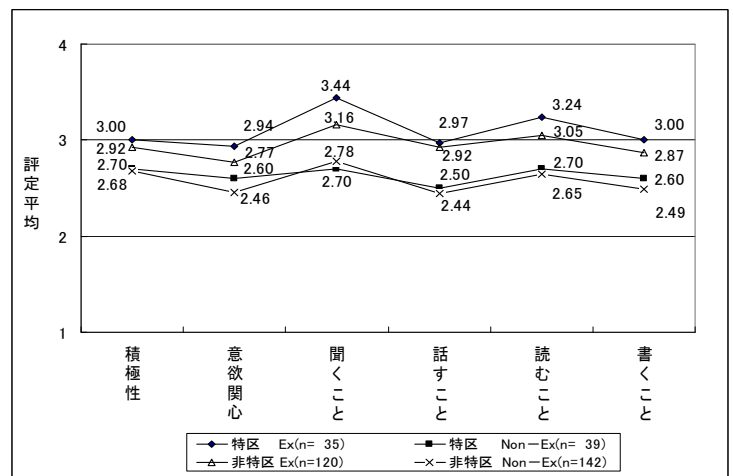


図4 中学校での英語学習に対する「自己有能感」

平均値に有意な差が認められた。このことは「入学前の学校外英語学習経験」が中学校での英語学習に対する「自己有能感」（態度面・能力面）に影響を与えているといえる。

オ 「実施時間数」が与える影響

小学校での「実施時間数」による影響も懸念されていた。そこで図1の非特区A～D群別比較を行い、「実施時間数」による影響を分析した。「実施時間数」以外はできるだけ同条件にするために、特区出身者と学校外英語学習経験者は分析から外している。その結果、「各時期の楽しさ感（期待感）」「役立ち感」「自己有能感」における平均値に有意な差は認められなかった。このことから非特区における「実施時間数」の違い（年間1～35時間）が児童生徒の情意的側面に影響を与えないことがわかった。

⑥ 調査のまとめ

仮説1に対する調査の結果、次のことが明らかになった。1) 接続時期における児童生徒の情意面は不安定である。2) 入学前の不安を中学校時期に楽しさへと変えたものは、中学校入学後の「わかる・できる」という安心感であり、小学校時期の「楽しさ感」である。3) 各時期において、楽しさを感じられなかった生徒や学びのつながりを実感できない生徒がいる。4) 小学校英語で重視してきた態度面（意欲関心・積極性）は、能力面に比べるとその役立ちを感じられていない。以上のことから、小学校における情意面の育成の効果は、2)のように中学校における情意面の育成を促している面もあるが、全体的には、1) 3) 4)のように促しきれていない面があるといえる。

仮説2に対する調査の結果、次のことが明らかになった。1) 特区・非特区の取組の違いによる影響は小学校英語に対する「楽しさ感」、「役立ち感」、中学校での英語学習に対する「楽しさの理由」にある。2) 非特区の「実施時間数」による影響は認められない。3) 「学校外英語学習経験」が児童生徒の情意的側面に影響を与えている。以上のことから、小学校の取組の違いが中学校の「楽しさ感」の度合い、「自己有能感」（態度面・能力面）に影響を与えない。

(3) 小中連携の英語教育の在り方に関する考察

(2)で見てきたように、本調査から、接続時期における児童生徒の情意面は不安定であり、各時期で学ぶ楽しさを感じられなかった生徒がいることなど課題が明らかになってきた。児童生徒にとって「円滑な接続」や「連携」とは、学びを積み上げることができ、その広がりや深まりを実感できることであろう。本調査結果を踏まえて、今何が課題であり、何のために、何を、どう連携するかについて、新学習指導要領も見据えて整理をした（図5）。

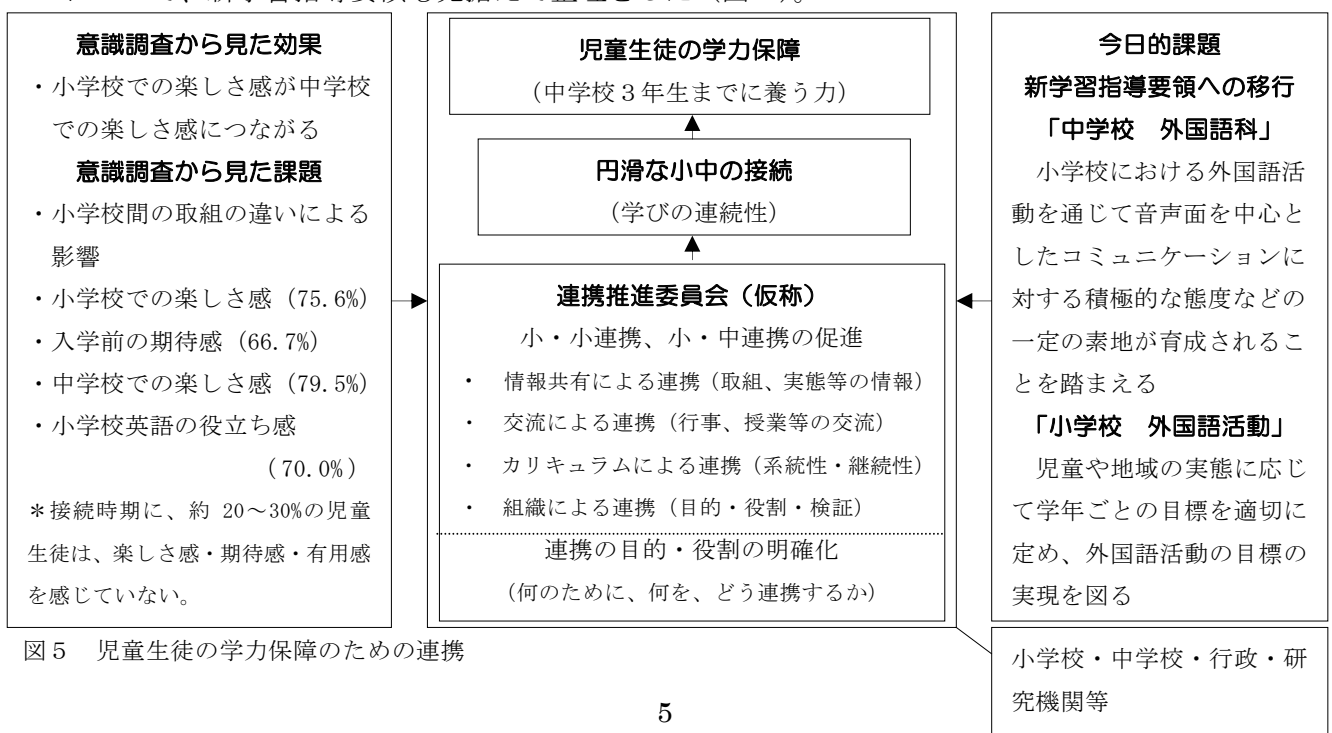


図5 児童生徒の学力保障のための連携

以下、図5に基づき意識調査から明らかになった課題を通して具体的な連携の在り方を考察する。

- ① 「小学校での楽しさ感」に対して → 「情報共有」「授業交流」による小・小連携（教員間）  
小学校段階ですでに楽しさを感じられなかった生徒が23.8%いたことは見過ごせない。これは、小学校における課題である。各小学校だけで取り組むのではなく、地域の小学校が情報を共有し合い、授業研究を通して教員が交流することにより、その解決を図ることができる。  
例えば、本調査で課題となった「歌・ゲーム」「英語で会話をする事」の問題点を探り、授業改善にあたることも考えられる。
- ② 「中学校入学前の期待感」に対して → 「情報共有」「授業交流」による小・小連携（教員間）  
→ 「交流」による小・中連携（児童・生徒・教員間）
- ・ 小学校卒業段階で「小学校は遊び（ゲーム）という感じだった。」（自由記述）という認識で終わらせることなく、「英語を通して～を学んだ（～ができるようになった）。中学校では、もっと～を学んでみたい（～ができるようになりたい）。」と次への学びを促す授業改善を小学校間で行う（例えば、めあて意識・評価の工夫により改善を図る）。
  - ・ 「交流」による連携では、例えば 1）課外活動・行事・授業を通して児童生徒の交流学习（活動）を実施することにより、小学生は中学生の姿を次の目標とすることができ、中学生は自分の成長や役立ちを感じることができる 2）中学校教員と小学生の交流学习（活動）により、児童は中学校での学習の方向を知ることができ、教員も入学してくる児童の実態を知る機会となる などが考えられる。
- ③ 「学びのつながりが感じられないこと」に対して  
→ 「カリキュラム」による小・中連携（教員間）

生徒が学びの積み重ねを感じるためには、「連携推進委員会（仮称）」などで「中学校3年生までに養う力」を明確にしたうえで、目標の一貫性と発達段階に応じた内容の系統性が必要になる。そこで小中学校教育を見通した目標を整理し、「中学校3年生までに養う力」の系統性を探ることにした。

#### ア 目標の一貫性

特区における「英語科」の目標、現行学習指導要領における中学校「外国語科」の目標、新学習指導要領案における小学校「外国語活動」・中学校「外国語科」の目標を総合的に見ると、（ア）言語や文化に対する関心・理解面（イ）コミュニケーションを図るための能力面（ウ）コミュニケーションを図ろうとする態度面 の3つの柱が目標としてあげられる。総合的な学習の時間における「英語活動」のねらいは（ア）（ウ）を中心としている。

これらの柱は別々のものではなく、「コミュニケーション能力の素地・基礎を養う」という目標に（ア）（イ）（ウ）が関連しながらせまることができると考える。

#### イ 発達段階に応じた系統性

アの目標をもとに、「発達段階に応じた系統性」（表1）を作成した。現行「英語活動」と特区「英語科」は3学年以上で実施されていることから、発達段階を小学校中学年・小学校高学年・中学校として示している。また、表1に基づき、「中学校3年生までに養う力の系統表」（参考資料2）を試案した。ここでは「新学習指導要領」への移行を見据えたものになっている。

さらに、それが発達段階に応じたものであるか、中学校での学びにつながるものになるかについて、高学年において検証授業を行った（実施時期：平成19年11月～12月、実施学年：公立小学校5学年51名）。その結果、5学年の発達段階として無理はなく、形成的評価と総括的評価ではコミュニケーションを図ろうとする態度面の伸びも見られた。しかし、一単元だけの検証ではその有効性は測れないため、今後継続した検証と改善が必要である。

表1 発達段階に応じた系統性

中学校3年までに養うコミュニケーション能力の素地・基礎			
観点	言語や文化に対する理解面	コミュニケーションを図るための能力面	コミュニケーションに対する態度面
中学校	言語や文化に対する理解 (言語活動による 気づき・理解を通して)	・わかる、使う ・聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと ・語、句、慣用表現、文、談話	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
小学校 (高学年)	言葉や文化に対する関心・理解 (コミュニケーション活動による 体験・気づきを通して)	・慣れる(なじむ) ・聞くこと、話すこと ・語、句、慣用表現、文	・進んでコミュニケーションを図ろうとする態度 ・コミュニケーションマナー
小学校 (中学年)	言葉や文化に対する興味・関心 (コミュニケーション活動による 体感・体験を通して)	・親しむ(ふれる・まねる) ・聞くこと(話すこと) ・語、句、慣用表現	・コミュニケーションを楽しもうとする態度 ・非言語によるコミュニケーションマナー

④ 「児童生徒の実態把握」に対して → 「情報共有」による小・中連携(教員間)

本調査に関する小中教員への取材を通して、小学校教員は中学校入学後の生徒の実態を、中学校教員は入学前の児童の実態を知る機会が少ないことがわかった。例えば、「連携推進委員会(仮称)」において、1)小学校では、英語を通して児童の何をどのようにどこまで育成してきたか 2)入学前の児童の実態 3)小学校英語の成果と課題 4)中学校入学後の生徒の実態 5)小学校英語が中学校入学後に与える効果 6)接続時期を過ぎた生徒をどのようにどこまで育成しているか 7)中学校英語教育における成果と課題 8)小中連携の検証 などの情報を共有することで、それらを指導に生かすことができる。

⑤ 「連携をどこがどのように進めるのか」に対して → 「組織」による小・中連携(組織間)

連携を進めるためにはそれを支援する組織が必要であろう。例えば「連携推進委員会(仮称)」を設置し、連携に関する運営を行う。そこでは全教育活動(各教科・領域等)に関する連携推進を担う。その目的と役割を明確にすることにより(例えば、研究機関はカリキュラム開発・連携の検証・調査等の役割を担うことで小中学校の実践を支える)、小学校・中学校・行政・研究機関等との連携を促し、児童生徒の学力保障を支えることができる。

4 まとめ

意識調査を通して、小中接続時期における児童生徒の情意的側面に与える影響を明らかにすることができた。そこから浮かび上がってきた課題と新学習指導要領への移行期という課題を踏まえて、「何のために、何を、どう連携するか」という視点から「小中連携の英語教育の在り方」を考察してきた。児童生徒にとっての連携とは、学びの広がりや深まりが感じられることである。そのためには、「情報共有」「交流」「カリキュラム」「組織」による連携が必要であると考えた。「カリキュラム」による連携では、「発達段階に応じた系統性」「中学校3年生までに養う力の系統表」を作成し、それに対する授業検証を高学年で行った。しかし、有効性を測るためには、検証の継続と改善が必要であり、今後の課題として残された。

本調査を通して明らかになった数字や自由記述には、参加生徒の思いがある。これからも児童生徒の視点で連携を模索し、学ぶ喜びが感じられる授業で子どもたちに応えていきたい。

【参考文献】

- ・松川禮子・木下邦幸(2007)『小学校英語と中学校英語を結ぶー英語教育における小中連携ー』高陵社書店
- ・村端五郎・高知県田野町幼小中連携英語教育研究会(2005)『幼小中の連携で楽しい英語の文字学習ー10年間の指導計画と40の活動事例ー』明治図書



6. 「4」で「あまり楽しなかった」「楽しなかった」と答えた人に聞きます。

「あまり楽しなかった」「楽しなかった」理由を、次の中からいくつか選んで、○をしてください。

- ( ) 英語の歌を歌ったり、英語のゲームをしたりすることが楽しなかったから。
- ( ) 友だちと英語を使ってやりとりをすることが楽しなかったから。
- ( ) 外国のことばや文化を知ることが楽しなかったから。
- ( ) 外国の人と話をしたり、交流したりすることが楽しなかったから。
- ( ) 身近なことを英語で言うことが楽しなかったから。
- ( ) 英語の絵本やDVDを見聞きすることが楽しなかったから。
- ( ) 英語を使った劇などを発表することが楽しなかったから。
- ( ) アルファベットや英語の単語を読むことが楽しなかったから。
- ( ) アルファベットを書くことが楽しなかったから。
- ( ) 英語学習の雰囲気に溶け込めず、楽しなかったから。
- ( ) その他【 】

7. あなたは、入学前、中学校での英語学習が楽しみでしたか。

【とても楽しみだった・楽しみだった・あまり楽しみではなかった・楽しみではなかった】

8. 「4」で「した」と答えた人に聞きます。

あなたは、小学校の英語学習が中学校で役に立っていると感じますか。あてはまるものを○でかこんでください。

【とても役に立っている・役に立っている・あまり役に立っていない・役に立っていない】

9. 「8」で「とても役に立っている」「役に立っている」と答えた人に聞きます。

「とても役に立っている」「役に立っている」と答えた理由を、次の中からいくつか選んで、○をしてください。

- ( ) 英語に慣れ親しむことで役に立っているから。
- ( ) 先生や友だちと、英語を使って会話をすることで役に立っているから。
- ( ) 外国の人に会った時、はずかしがらないことで役に立っているから。
- ( ) 外国のことばや文化に興味や関心をもつことで役に立っているから。
- ( ) 「聞くこと」で役に立っているから。
- ( ) 「話すこと」で役に立っているから。
- ( ) 「読むこと」で役に立っているから。
- ( ) 「書くこと」で役に立っているから。
- ( ) その他【 】

10. 「8」で「あまり役に立っていない」「役に立っていない」と答えた人に聞きます。「あまり役に立っていない」「役に立っていない」と答えた理由を、次の中からいくつでも選んで、○をしてください。

- |   |   |
|---|---|
| <p>( ) 英語に慣れ親しむことで役に立っていないから。</p> <p>( ) 先生や友だちと、英語を使って会話をする中で役に立っていないから。</p> <p>( ) 外国の人に会った時、はずかしがらないことで役に立っていないから。</p> <p>( ) 外国のことばや文化に興味や関心をもつことで役に立っていないから。</p> <p>( ) 「聞くこと」で役に立っていないから。</p> <p>( ) 「話すこと」で役に立っていないから。</p> <p>( ) 「読むこと」で役に立っていないから。</p> <p>( ) 「書くこと」で役に立っていないから。</p> <p>( ) その他【</p> | 】 |
|---|---|

11. あなたは、中学校での英語学習が楽しいですか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 とても楽しい ・ 楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない 】

その理由を書いてください：

12. あなたは授業の中で、英語を聞いてどの程度内容がわかりますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 ほとんどわかる ・ ある程度わかる ・ わからないところがある ・ ほとんどわからない 】

13. あなたは授業の中で、英語を使ってどの程度話すことができますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 ほとんど話せる ・ ある程度話せる ・ 話せないところがある ・ ほとんど話せない 】

14. あなたは授業の中で、英語を読んでどの程度内容がわかりますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 ほとんどわかる ・ ある程度わかる ・ わからないところがある ・ ほとんどわからない 】

15. あなたは授業の中で、英語を使ってどの程度書くことができますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 ほとんど書ける ・ ある程度書ける ・ 書けないところがある ・ ほとんど書けない 】

16. あなたは、外国の文化や言葉にどの程度興味や関心がありますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 とても興味関心がある ・ ある程度興味関心がある ・ あまり興味関心がない ・ ほとんどない興味関心がない 】

17. あなたは授業の中で、英語学習にどの程度積極的に取り組んでいますか。あてはまるものを○でかこんでください。

- 【 とても積極的である ・ ある程度積極的である ・ あまり積極的でない ・ ほとんど積極的でない 】

「中学校3年生までに養う力」系統表

観点 ○言語や文化に対する理解面 ○コミュニケーションを図るための能力面 ○コミュニケーションに対する態度面

コミュニケーション能力の基礎を養う（中学校）

【新学習指導要領案 外国語科目標】

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

学年	言語や文化に対する 理解面 【気付き・理解を通して】	コミュニケーションを図るための能力面【言語活動を通して】				コミュニケーションに対する態度面 【積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度】
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	
		【わかる・使う／ 聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと／ 語・句・慣用表現・文・談話】				
中3 中2 中1	<p>○言語のもつ仕組み、意味、その働きを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語（英語）のもつ仕組み、意味、その働きを理解することができる。</li> <li>日本語との違いを知り、言語の面白さ、豊かさを知ることができる。</li> <li>国語への理解を深めることができる。</li> </ul> <p>○言語の背景にある文化を理解するとともに自国の文化への理解を深めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な国の文化と我が国の文化との共通点や相違点を理解することができる。</li> <li>ものの見方や考え方などの違いについて理解することができる。</li> <li>自国の文化について理解を深めることができる。</li> </ul>	<p>○初歩的な英語聞いて、話し手の意向などを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ることができる。</li> <li>自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ることができる。</li> <li>質問や依頼などを聞いて適切に応じることができる。</li> <li>話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解することができる。</li> <li>まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ることができる。</li> </ul>	<p>○初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強勢、イントネーション、区切りなど基本的な音声の特徴をとらえ、正しく発音することができる。</li> <li>自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えることができる。</li> <li>聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりすることができる。</li> <li>つながり言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話を続けることができる。</li> <li>与えられたテーマについて簡単なスピーチをすることができる。</li> </ul>	<p>○初歩的な英語を読んで、その概要や要点、書き手の意向などを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字や符号を識別し、正しく読むことができる。</li> <li>書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したりすることができる。</li> <li>物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ることができる。</li> <li>伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じることができる。</li> <li>話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるように、書かれた内容や考え方をとらえることができる。</li> </ul>	<p>○初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを、読み手に正しく伝わるように書くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くことができる。</li> <li>語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができる。</li> <li>聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすることができる。</li> <li>身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くことができる。</li> <li>自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。</li> </ul>	<p>○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動に積極的に取り組むことができる。</li> <li>自分の考えや気持ちを伝えようとしたり、理解しようとしたりするなど、積極的にコミュニケーションを図ることができる。</li> <li>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けることができる。</li> </ul>

コミュニケーション能力の素地を養う（小学校高学年）

【新学習指導要領案 外国語活動目標】

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

学年	言葉や文化に対する 関心・理解面 【体験・気付きを通して】	コミュニケーションを図るための能力面【コミュニケーション活動を通して】				コミュニケーションに対する態度面
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	
		【慣れる(なじむ)／ 聞くこと・話すこと／ 語・句・慣用表現・文】				【進んでコミュニケーションを図ろうとする態度】
小6	<p>○体験的な活動等を通して言葉のもつ意味、言葉の大切さ(言語による相互理解等)に気付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉を用いてコミュニケーションを図ることの大切さに気付くことができる。</li> <li>日本語との違いを知り、言葉の面白さに気付くことができる。</li> <li>国語への理解を深めることができる。</li> </ul> <p>○非言語の役割を理解することができる。</p> <p>○様々な国の文化に関心をもち、ものの見方や考え方の多様性に気付くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くことができる。</li> <li>自国の文化について理解を深めることができる。</li> </ul>	<p>○簡単な英語(語・句・慣用表現・文)を聞いて、相手の考えや気持ちを知ることができる。(ア)～(オ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手に聞き返すなどして、その内容を知ることができる。(ア)</li> </ul> <p>○英語の音声やリズムなどの特徴を感じ取ることができる。</p>	<p>○簡単な英語(語・句・慣用表現・文)を用いて自分の考えや気持ちを伝えることができる。(ア)～(オ)</p> <p>○簡単な英語(語・慣用表現)や動作を用いて、相手の話に反応することにより、相手との関係を円滑にすることができる。(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいづちを打つ</li> <li>うなずきや身振り手振り</li> </ul> <p>○英語の音声やリズムなどの特徴を感じ取り、まねることができる。</p>	<p>* 小学校では、音声面を重視した活動をするが、「読むこと」「書くこと」によるコミュニケーション活動を取り入れる場合についても考え、下記を試案した。</p> <p>○簡単な文字(語・慣用表現)を見て、相手の気持ちを知ることができる。(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードなどに貼られた簡単な文字(語・慣用表現)を見て、(例: Thank you.)相手の気持ちを知らることができる。(お礼・祝う・賞賛の気持ち)</li> </ul>	<p>○簡単な文字(語・慣用表現)を選んだり、貼ったりすることにより、自分の気持ちを伝えることができる。(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(お礼・祝う・賞賛の気持ち)</li> </ul>	<p>○進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを味わうことができる。</li> <li>コミュニケーション活動に進んで取り組むことができる。</li> <li>相手の話に反応して、コミュニケーションを楽しむことができる。(うなずき・あいづち)</li> <li>非言語によるコミュニケーションマナーを身に付けることができる。(アイコンタクト、表情)</li> <li>コミュニケーションマナーを身に付けることができる。(声の大きさ、声の明瞭さ)</li> </ul> <p>○「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しむことができる。</p>
小5	<p>○簡単な英語(語・句・慣用表現・文)を聞いて、その内容を知ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物や身振り手振りがかりして、その内容を知ることができる。</li> <li>相手に聞き返すなどして、その内容を知ることができる。(ア)</li> </ul> <p>○英語の音声やリズムなどの特徴を感じ取ることができる。</p>	<p>○簡単な英語(語・句・慣用表現・文)を用いて自分の考えや気持ちを聞き手に伝えることができる。(ア)～(オ)</p> <p>○簡単な英語(語・慣用表現)や動作を用いて、相手の話に反応することにより、相手との関係を円滑にすることができる。(ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うなずきや身振り手振り</li> </ul> <p>○英語の音声やリズムなどの特徴を感じ取り、まねることができる。</p>	<p>○簡単な文字(語)を見て、相手の気持ちを推測することができる。(イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貼られた(シールなど)簡単な文字(語)を見て(例: Good!),相手の気持ちを推測することができる。</li> </ul> <p>○小文字を認識し、文字に親しむことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小文字の形を識別したり、文字名で読んだりすることにより、文字に親しむことができる。</li> </ul>	<p>○簡単な文字(語)を選んだり、貼ったりすることにより、自分の気持ちを伝えることができる。(イ)(賞賛の気持ち)</p>		

コミュニケーション能力の素地を養う（小学校中学年）

学年	言葉や文化に対する 興味・関心面 【体感・体験を通して】	コミュニケーションを図るための能力面 【コミュニケーション活動を通して】				コミュニケーションに対する態度面 【コミュニケーションを楽しもうとする態度】
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	
		【親しむ(ふれる・まねる)/聞くこと(話すこと)/語・句・慣用表現】				
小4	<p>○様々な言葉や文化があることを知り、関心を持つことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、言葉や文化に対する関心をもつことができる。</li> <li>英語を使って、外国の人とコミュニケーションが図れることに関心をもつことができる。</li> </ul> <p>○非言語の役割に気付くことができる。</p>	<p>○簡単な英語(語・句・慣用表現)の質問や指示を聞いて、その内容を推測することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物や身振り手振りを手がかりして、その内容を推測することができる。</li> </ul> <p>○英語の音声に親しみながら、聞くことができる。</p>	<p>○簡単な英語の質問や指示を聞いて、動作や簡単な英語(語・句・慣用表現)で応じることができる。</p> <p>○簡単な英語(語・句・慣用表現)を用いて自分の考えや気持ちを伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>賞賛の気持ちを伝える。(イ)</li> <li>自己紹介をする。(ア)</li> <li>依頼する。(オ)</li> </ul> <p>○簡単な英語(語・句・慣用表現)をまねることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の音声などに親しみながら、まねることができる。</li> </ul>	<p>○大文字を認識し、文字に親しむことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大文字の形を識別したり、文字名で読んだりすることにより、文字に親しむことができる。</li> </ul>	<p>○自分の名前を書くことができる。</p>	<p>○コミュニケーションを楽しもうとする態度を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動を通して、コミュニケーションする心地よさを感じることができる。(あいさつ、お礼、賞賛など)</li> </ul> <p>○非言語によるコミュニケーションマナーを身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を最後まで聞くことができる。</li> <li>相手を見ながら話を聞くことができる。</li> <li>笑顔で聞いたり話したりすることができる。</li> <li>身振りや手振りを用いて、コミュニケーションを図ることができる。</li> </ul> <p>○「聞くこと」に親しむことができる。</p>
小3	<p>○異なる文化をもつ人々との交流等の体験を通して、日本語とは異なる言葉や文化があることを知り、興味をもつことができる。</p>	<p>○簡単な英語の指示を聞いて、その内容を推測することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物や身振り手振りを手がかりして、その内容を推測することができる。</li> </ul> <p>○英語の音声に親しみながら、聞くことができる。</p>	<p>○簡単な英語の指示を聞いて、動作で応じることができる。</p> <p>○自分の気持ちを伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをする。(ア)</li> <li>お礼の気持ちを伝える。(イ)</li> </ul> <p>○簡単な英語(語・慣用表現)をまねることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語の音声などに親しみながら、まねることができる。</li> </ul>	<p>○学習環境の中で、外国の文字にふれることができる。</p>	<p>*国語科との関連 (新学習指導要領案ではローマ字指導は3学年に位置づけられている。)</p>	<p>○コミュニケーションを楽しもうとする態度を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動を通して、コミュニケーションする心地よさを感じることができる。(あいさつ、お礼など)</li> <li>コミュニケーション活動を楽しむことができる。</li> </ul> <p>○非言語によるコミュニケーションマナーを身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を最後まで聞くことができる。</li> <li>相手を見ながら話を聞くことができる。</li> </ul>

\* 小学校高学年・中学校年の(ア)～(オ)の記号は【小中学校における言語の働きの例】の項目を示している。

【発達段階に応じた系統性】

中学校3年までに養うコミュニケーション能力の素地・基礎

観点	言語や文化に対する理解面	コミュニケーションを図るための能力面	コミュニケーションに対する態度面
中学校	・言語や文化に対する理解 (言語活動による気付き・理解を通して)	・わかる、使う ・聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと ・語、句、慣用表現、文、談話	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
小学校 (高学年)	・言葉や文化に対する関心・理解 (コミュニケーション活動による体験・気付きを通して)	・慣れる(なじむ) ・聞くこと、話すこと ・語、句、慣用表現、文	・進んでコミュニケーションを図ろうとする態度 ・コミュニケーションマナー
小学校 (中学年)	・言葉や文化に対する興味・関心 (コミュニケーション活動による体感・体験を通して)	・親しむ(ふれる・まねる) ・聞くこと(話すこと) ・語、句、慣用表現	・コミュニケーションを楽しもうとする態度 ・非言語によるコミュニケーションマナー

【小中学校における言語の働きの例】(参考 新学習指導要領案)

項目	小学校における言語の働きの例	中学校における言語の働きの例
(ア)	<b>相手との関係を円滑にする</b> あいさつする、紹介する、あいづちを打つ、聞き返すなど	<b>コミュニケーションを円滑にする</b> あいさつする、紹介する、よびかける、あいづちを打つ、聞き返す、繰り返すなど
(イ)	<b>気持ちを伝える</b> 歓迎する、祝う、ほめる、礼を言うなど	<b>気持ちを伝える</b> 歓迎する、祝う、ほめる、喜ぶ、驚く、礼を言う、苦情を言う、謝るなど
(ウ)	<b>事実を伝える</b> 説明するなど	<b>情報を伝える</b> 説明する、報告する、発表する、描写するなど
(エ)	<b>考えや意図を伝える</b> 申し出る、賛成する、承諾するなど	<b>考えや意図を伝える</b> 申し出る、約束する、意見を言う、賛成する、反対する、承諾する、断るなど
(オ)	<b>相手の行動を促す</b> 質問する、依頼する、誘うなど	<b>相手の行動を促す</b> 質問する、依頼する、招待する、誘う、許可する、助言する、示唆する、命令する、禁止するなど